大阪医科大学学報

第24号　平成7年5月

大学管理棟（役員室）小庭園に咲きほこる満開の桜
（牧谷魁司氏撮影）

◆目　次◆

学長式辞 …… 2
定年退職教授の最終講義 …… 4
新任教授紹介 …… 5
規程（制定･改正） …… 7
時期学長予定者について ……10
人事（採用、退職、昇格・異動、休職・復職、委嘱・解職、海外渡航（留学、帰学、出張）） …10
教室紹介 …… 17
入試･国家試験状況（学部､大学院、看護専門学校） … 18
平成7年度主なる事業計画 …… 18
学位記授与 …… 20
平成7年度収支予算 …… 22
海外出張記 …… 24
医学の散歩道 …… 25
会議・行事予定 …… 26
阪神・淡路大震災に関する支援等について …… 29
医学会・シンポジウム ……30
附属病院（診療動態） …… 31

学　長　式　辞

自から学ぶ精神を貫き「智・徳・体」の練磨を

新入生の皆さん、ご家族の皆様、ご入学誠におめでとうございます。

本日ここに、平成７年度の入学宣誓式を挙行し、102名の潑剌たる優秀な諸君をお迎え致しますことは、大阪医科大学にとって大きな慶びであり、本学教職員と共に、心から歓迎を致します。また、小学校以来、今日まで長年に亘って諸君の学業を支え、ご支援下さったご両親、ご家族の皆様に対しまして、諸君と共にそのご薫育に対して心から感謝と敬意を捧げたいと存じます。

本学は、昭和２年に創設され、今年で創学以来68年を迎えます。これまでの卒業生の総数は7,145名に達しております。そのうち６割以上の方々がご健在であり、診療の第一線で活躍され、あるいは医学の教育・研究に従事され、社会に大きく貢献しておられますことは誠に喜ばしい限りに存じます。

本学は国公立の大学に見られない自由で特色ある学風とマンモス大学にはない良い意味での家庭的な雰囲気の中で、教職員、学生が一緒になって一つのファミリーとして共に学び、共に遊ぶ長所をもっております。また、公正な入学試験、高い国家試験合格率、優秀な教授陣、優れた教育、研究設備などによって、我国有数の私立医科大学という定評を得ております。本日入学された新入生の諸君は、この伝統ある大阪医科大学の一員として、自信と誇りをもって、立派な医師になる為の第一歩を踏み出して頂きたいと思います。

諸君がこれから、医学を学び、立派な医師になるためのスタートにあたって、私から一言所感を申し述べたいと思います。

本日入学された皆さんは、将来、患者の精神的・肉体的な痛みを感じ取れる医師になってほしいという事であります。申すまでも無く、医師は何ものにも代え難い、「尊い生命」を預かる職業であります。このことは必然的に重い責任を託され、一般の人々からは尊敬の念をもって接せられるものであります。それだけに立派な医師となるためには、まず、その尊敬に値する、人の師表となる優れた識見と人格を供えることが求めれます。また、最善を尽くして医学を学び、医術を練磨するという覚悟が必要であります。もし、自らの不勉強と努力不足のために、救うべき患者の生命を救うことが出来ないような事態が起これば、その痛恨の思いは生涯に亘るものとなりましょう。

まず第一に、医学を志すものは、常に「自ら学ぶ」という心構えが必須であります。医学部は他の学部と違って、入学の時と卒業の時では、知識において、本当に大きな違いがあります。専門過程になって、一年上の先輩の話している事柄が、何の話をしいるのか全く理解出来ないことがあります。しかし、自分達も同じ学年になりますと、それは特別に難しい事を話していたのではなかったことがわかります。このような点から見ても、毎日、学習すること、覚えることが如何にたくさんあるかということが理解できましょう。この６年間で、身体のしくみ、病気の原因やその発症の機序、またそれらの病気の治療に至るまで、本当にたくさんの事を学ばねばなりません。その厳しさも想像できると思います。従って、高校時代のように、教えられた教科の試験にパスするといった受け身の勉強ではなくて、積極的に、自ら疑問を提出し、何が真理であるかを見極める厳しい態度で勉強することが要求されます。それは、自分で考え、自分でまとめ、自分で表現することが大切であります。それだけに、これまでよりは自由度は

大きくなりますが、自由であるということは、反面、本人の責任が大きくなるということであります。

何事も自分で考えて行動しなければ、人の助けを常に期待することは出来ません。どうか諸君も、若い情熱を学問に注ぎ、「自ら積極的に学ぶ精神」を体得して頂きたいと思います。卒業して、医師になっても、医学や医療の進歩についてゆく為、また社会のニーズに応える為には、生涯にわたって、自ら学習して、社会の変化に対応出来ることが大切であります。

次にもう一つ大切なことは、「人格の形成と健康な身体を鍛える」ということであります。諸君は、今まで、まず大学に入学することを当面の目標として、ご両親やご家族までも巻き込んで、頑張って来られたと思います。家庭における自分の役割分担を免除してもらったり、読書や、スポーツも十分には出来なかったと思います。受験勉強中に「合格したらやろう」と思っていた事は本当にたくさんあると思います。時間を作って、それらの事を実行して下さい。

本学は、古い都「京都」と近代的な大都会である「大阪」との中間に位置し、種々の文化活動に接するには、誠に地の利を得ております。

本学進学過程のスポーツ施設は、皆さんが体力、気力を鍛練し、スポーツマンシップを身につける最適の環境を提供しております。先輩方をみてみますと、6年間の学生生活は、殆どがクラブ活動が中心の友情関係であり、後々クラブの先輩からの指導が本当に大きく影響しているようにみられます。

皆さんは、医師となるのが目的ですから、医学の勉強もした上で、クラブ活動も頑張って下さい。但し、プロのスポーツ選手を養成する学校ではないことを心得ておいて下さい。私は、医学部のクラブに相応しい楽しい知的なクラブ活動をされることを願っております。また、ご家庭では、友達や、学校の授業の事など、大学で起こったこと、自分達が関心を持っていることなど、いろいろと話されて、ご両親の経験なども伺いながら、ご家族の皆さんと共に、諸君が6年後に、立派な医学士として卒業される過程を、共に成長し、共に楽しんで頂きたいと思います。

大学生になりますと、世間では大人としてあつかわれます。20才の成人となっている人もおりましょうが、社会経験はまだまだ未熟であります。しかし、純粋で正義感に富み、日本の将来を託すに相応しい、素晴らしい人間になる可能性を無限に秘めております。立派な人格をそなえ、社会の期待に応えられる人間に成長するか、否かは諸君自身の努力と心がけ如何によります。

最近、『医の倫理』という言葉がしきりに問題になっております。立派な医師として、広い知識と優れた技術を身につける以上に、立派な人格と強い倫理感を持つことが、強く要請されております。在学中に、高い学問と技術をそなえると共に、立派な人格と健康な体を鍛練し、「智・徳・体」の兼ね備わった、創造性豊かな医師として成長されることを心から期待するものであります。

新入生の皆さん、諸君は大阪医科大学の新しい一員として、自信と誇りをもって、これからの6年間、楽しい、意義ある学生生活を送って下さい。

諸君の洋々たる前途を祝し、一言所感を述べて式辞と致します。

本日はおめでとうございます。

平成7年4月10日

学　長　　松　本　秀　雄

定年2教授が最終講義

この3月定年を迎えられた法医学講座溝井泰彦教授、産婦人科学講座杉本修教授の最終講義が下記のとおり行われました。

＜法医学講座　溝井泰彦教授＞

1. 日時　3月8日（水）15：00～17：00
1. 場所　臨床第一講堂
1. 演題　『法医学研究を振り返る』—実用法医学

溝井教授は、損傷から推定される凶器とその使用法、アルコール代謝の遺伝的個体差など、これまでに手がけた鑑定において問題となった事項にどのような解決を与えたかを紹介し、法医学が果たす役割をその実用性の観点から論じられた。

＜産婦人科学講座　杉本　修教授＞

1. 日時　3月1日（水）14：30～16：00
1. 場所　臨床第一講堂
1. 演題　『内視鏡とともに30年』

杉本　修教授は、視診は診断学の基本であるとの観点から、当時の診断法では原因不明とされていた不妊症などの症例に対して、いちはやく腹腔鏡と子宮鏡を導入。これらの腹腔鏡や子宮鏡に日本における開発の歴史と変遷について豊富な症例をもとに解説され、更に今後の発展について論じられた。

新任3教授の抱負

情報と心の世紀へ向けて

新たな研修科目模索も

物理学講座
田中正寛教授

昭和35年3月京都大学植物学科卒業。
昭和41年3月京都大学大学院博士課程修了（物理学専攻）。
理学博士。
昭和41年4月本学講師（物理学）。
平成7年4月本学教授就任

本学における教育改革も、遅ればせながら漸く大詰めを迎えようとしています。しかし、それは改革の出発点にすぎず、その後もさまざま

の困難に遭遇することが予想されます。そんな時期に、問題の一般教育の、その中でも問題とされた物理学担当教授として就任することにいささか責任を感じています。今回の大学改革は大学の制度の自由化と自己評価に基づく自己改革によって大学に対する長年の批評に応えようとするものだと思います。一般教育は一貫教育の指針の下でも消えることはありませんでした。これは社会の一員として要求される知識の広さに応えるためのものだと思われます。

また、一般教育の自然科学系として物理学、化学、生物学の三科目が採択されているのは、純粋物理学、純粋化学、純粋生物学が採りあげられたという意味ではなく、自然科学全体を視界に収めるためにこの三科目が選ばれたのだと考えられます。ですから、医学との関連が強いテーマなら純粋物理学以外のものでも採用すべきだと思います。情報科学などは、これらの科目には収まりきらない重要な科目であり、一刻も早くカリキュラムとして提供するのが大学の任務なのではないでしょうか。

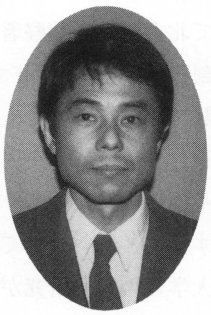
情報は大学院の時代からずっと考え続けてきた研究テーマでもあります。現時点では遺伝情報の翻訳過程における生物情報の段階ですが、情報とは何かを決定するものであり、その延長線上には科学の最後の聖域といわれる心の世界が広がっています。心は物理法則とは独立であるかのごとく体という物体を動かしているのです。もう少し正確にいえば、物理法則では確定しない部分を情報が決定しているのです。情報とは、心とは、物理的に何ものなのか、その秘密が物理学と情報科学と神経科学の交点にあると思われます。それをライフワークとして何かを残していきたいと考えています。

未解明分野を積極研究

若い後継者育成めざす

法医学講座

鈴木廣一教授



昭和55年3月本学卒業。
昭和56年4月～昭和57年3月フランス国立科学研究センター付属血液型研究所へ留学。
昭和59年3月本学大学院修了。医学博士。
昭和59年4月本学助手（法医学）。
昭和60年7月同講師。
平成4年4月同助教授。
平成7年4月本学教授就任。

本年4月1日から、溝井泰彦教授の後任として法医学講座を担当させていただくことになりました。本学法医学講座は、昭和34年に開設されて以来、大村得三教授、松本秀雄教授、溝井泰彦教授と学界に重きをなしてこられた先生方によって築かれて参りました。このよき伝統を踏まえて、法医学の教育・研究を一層発展させるべくいっそうの努力をして参る所存です。

私は昭和49年に本学に入学し、同55年卒業と同時に法医学教室に入りました。以後、松本秀雄現学長から法医解剖および研究の初歩からの指導を受け、平成2年からは溝井泰彦教授の教えを授かって参りました。教室では血液型を含めた多型形質の集団遺伝学的及び生化学的研究を行ってきましたが、溝井教授時代にアルコール代謝に関する遺伝学的研究、日本の死因調査の現状に関する統計学的研究等、当教室にとっては新しい領域にも研究対象を広げました。近年多型形質の研究はDNAレベルでの多型に対象が広がり、遺伝疾患の原因を解明する研究に

おいては必須のものとなると同時に、法医学の分野にとっても多型の宝庫として、法医学研究の重要な課題のひとつである個人の特定・識別にとってますます重要になっています。一方、法医学の日常業務の柱である法医解剖に関しては、当教室は高槻を含めて北大阪の12警察署管内の異状死体の検案・解剖に携わっております。ここ数年の年間取り扱い数は年100体を越えております。これらの解剖遺体のなかには小児から青壮年にかけての原因不明の突然死もあり、その原因の一端でも解明することが急がれており、他の教室あるいは他大学との共同研究が必要であると考えています。

このように法医学の研究領域・対象は多岐にわたっていますが、それを推進すべき人手は全国的にみても不足の状態です。他科の若い先生方と当教室の特色を生かした共同研究を進めるとともに、本学の卒業生も含めてガッツのある若い人達に教室に入っていただき、法医解剖、研究、教育に共に携わることを通じてバランスのとれた優れた法医学研究者を育てていくことが使命であると考えています。今後ともご指導、ご協力を心からお願い申しあげます。

臨床・研究結んで成果を

愛情ある指導をめざす

産婦人科学講座

植木　實 教授

昭和38年３月本学卒業。
昭和43年３月本学大学院修了。医学博士。
昭和43年９月本学助手（産婦人科学）。
昭和46年４月同講師。
昭和52年４月同助教授。
昭和59年７月から１年間ニュージーランド、オークランド大学へ招請留学。
平成２年６月日本臨床細胞学会学会賞受賞。
平成７年４月本学教授就任。

今度、産婦人科学教室の教授に就任させていただきました。これも一重に松本学長をはじめ多くの教授のご支持の賜ものであり、また、同門会（三曜会）及び仁泉会の諸先輩、教室員並びに多くの教職員のおかげと心から感謝申し上げます。今後共よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

さて、私は入局以来、婦人科領域の悪性並びに良性腫瘍の形態並びに病態に関する研究を一貫して行ってきました。今後も上記諸分野を引続き専門にしますが、いずれも基礎及び臨床上きわめて重要で、未解決の問題を包含しています。これらを追究しつつ、専門の知識と技術を社会へフィードバックしていくつもりです。一般に大学での産婦人科教室は腫瘍、内分泌とreproductionを主要分野とし、それぞれの専門家を必要としますが、当教室では既に若い指導者がそれぞれに育ちつつあります。これら指導医師はまず自らvitalityを持って勉強し、進取の姿勢が大切と考えます。当教員の教育や臨床指導は入局後２年間がとくに重要な時期と言えます。ともすれば臨床的処理に追われる日々の中で、その中から学問的材料を見い出して臨床論文に仕上げさせ、また本格的な研究を手伝わせて研究的頭脳を培う必要があります。現在、外来診療では初診以外は専門別のクリニック方式にして患者を集中させ、担当医師の臨床的能力の向上と臨床的研究材料を得るようにしています。その臨床研究で生じた疑問は動物実験、細胞培養、ホルモン測定など実験的手段を用い、或は基礎系教室との共同研究を行っているが、今後得られた結果を一層臨床面に応用してゆき

たい。一方、一般臨床面で分娩及び手術における高等手技の取得もきわめて大切で、これらについても十分に修得させたい。以上の方針は、教室内を活気づけてレベルの高い専門家の育成を促し、教室の研究や診療のレベルを向上させると考えられ、魅力ある教室造りを行ってゆきたいと思います。

『教室とは難しいもの』というのが私の長い大学教育での偽らざる感想であります。これには学生に愛情をもって自ら指導するのが最も大切と考えています。産婦人科は、reproduction、性器の生理や腫瘍の病態、治療さらに内分泌分野などを包含する領域から成り立っています。最近の学問の進歩は、これらの分野をより深く、さらに他科との境界領域へと広げており、教室員や卒後研修における内容の変化は著しいものがあります。学生教育に関しては、従来の知識を一方的に与える講義方式から、SGT などの質疑応答形式やレポート作成などの自学自習への方向へ向う必要性を強く感じます。幸いにして昨年度新しい図書館の完成で視聴覚システム、新蔵書の増冊、CD-ROM による文献検索システムが完備されたことは心強く思います。加えて、卒業後は自ら本学で研修し、staff となって大学を盛り上げるような心構えを持つ学生に指導してゆきたい。

最後に、私は本学医師会の役員をしておりますが、大阪医科大学を大阪或いは近畿地区での立場の向上のために本医師会の活動を一層活発にする必要があると考えます。既に医師会報を年に2回発行し、15年間続いています北摂四医師会連合臨床討議会を北摂四医師会医学会に改称して、その基盤を作り直しまして近隣地区の先生方との交流、病診連携および学習の場としたいと考えています。長い間、大阪府医師会内での活動が十分でなかった点も反省し、積極的に参加してゆきたいと考えます。よろしくご協力の程、お願い申し上げます。

簡単ですが、私の抱負とご挨拶にさせて頂きます。

規　　程

事務局の組織並びに事務分掌規程の一部改正

今般、病院事務部医事課を医事第一課と医事第二課に分離したことに伴い、それに関連する事務局の組織並びに事務分掌規程の一部（第1条及び第3条）が下記のとおり改正されました。

1. 第1条中「医事課」を、「医事第一課」「医事第二課」に改める。
2. 第3条中医事課の分掌事務を次のとおり改める。

医事第一課

1. 外来患者の受付等に関すること。
2. 外来患者の診療費算定及び請求書作成に関すること。
3. 外来患者の各種保険の申請事務に関すること。
4. 外来患者の医療相談・病診連携等に関すること。
5. 外来患者のカルテ等管理に関すること。
6. 外来の調査・統計に関すること。
7. 電算機の運用等に関すること。
8. その他外来患者の医療事務に関すること。

医事第二課

1. 入院患者の受付等に関すること。
2. 入退院の事務に関すること。
3. 入院患者の診療費算定及び請求書作成に関すること。
4. 入院患者の各種保険の申請事務に関すること。
5. 入院患者の医療相談等に関すること。
6. 入院患者のカルテ等管理に関すること。

7. 入院の調査・統計に関すること。
8. 診療費の収納等の会計事務に関すること。
9. 病院の予算、決算の事務に関すること。
10. その他入院患者の医療事務に関すること。
3. この改正は、平成7年4月1日から施行する。

就業規則の一部改正

今般、介護休業制度を実施するに伴い、それに関連する就業規則の一部（第28条及び別表）が下記のとおり改正されました。

1. 第28条の2の次に、次の1条を加える。

「第2条の3　職員が配偶者、父母、子、配偶者の父母並びに職員と同居する祖父母及び兄弟姉妹の負傷、疾病又は老齢により2週間以上日常生活を営むのに支障があるものを介護するために介護休業を申し出た場合は、別に定める介護休業規程により休業させることができる。」

2. 別表の勤務時間中看護員外来勤務者の「午後4時10分」を「午後4時」に、「午後0時10分」を「午後1時」に夫々改める。
3. この改正は、平成7年4月1日から施行する。

給与規則の一部改正

今般、宿日直手当支給額の変更により給与規則の一部（第7号）が下記のとおり改正されました。

1. 第1条第1号中「9,800円」を「10,100円」に、「14,700円」を「15,150円」に、同条第2号中「6,100円」を「6,300円」に、「9,100円」を「9,450円」に夫々改める。
2. この改正は、平成7年4月1日から施行する。

住宅手当支給規程の一部改正

今般、住宅手当支給額の変更により住宅手当支給規程の一部（第2条）が下記のとおり改正されました。

1. 第2条第3号中「4,600円」「4,800円」に改める。
2. この改正は、平成7年4月1日から施行する。

本学奨学金貸与規程の一部改正

今般、授業料値上げに伴い、それに関連する本学奨学金貸与規程の一部（第10条）が下記のとおり改正されました。

1. 第10条第1項中「60万円」を「84万円」に改める。
2. この改正は、平成7年4月1日から施行する。

但し、平成6年度以前から在学する者については、改正後の第10条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

診療教授規程細則の一部改正

今般、講座等内での任用について診療教授規程細則の一部（第8条）が下記のとおり改正されました。

1. 第8条を次のとおり加える。

「（講座等内での任用）

第8条　診療教授が在籍する講座または中央診療部門は、その定員の範囲内で所定の手続きを経たうえ、助教授および講師を任用することができる。」

2. この改正は、平成7年4月1日から施行する。

介護休業規程

（目的）

第1条　この介護休業規程（以下「規程」という）は、学校法人大阪医科大学就業規則第28条の3の規定に規定に基づき、職員の介護休業（以下「休業」という）に関する事項を定めるものである。

（対象者）

第2条　休業の対象者は、休業を希望する職員（短時間雇用職員は除く）で、次の各号に該当するものとする。

(1) 介護を必要とする配偶者、父母、子、配偶者の父母並びに当該職員と同居して

いる祖父母及び兄弟姉妹を有する者

(2) 勤続1年以上の者

(3) 休業申出の日から起算して1年以内に退職予定でない者

(4) 休業後引き続き勤務する意思のある者

（申出）

第3条　休業を希望する者は、特別の事由のある場合を除き、休業を開始する日の2週間前の日までに、本学所定の「介護休業申出書」に必要事項を記載し、所属長を経て申し出なければならない。

2．前項の申出書には、介護を必要とする者の診断書及び本人との続柄を証明する書類を添付しなければならない。

（期間）

第4条　休業の期間は、介護を必要とするもの1人につき連続する3ヶ月を限度として、本人の申し出た期間とする。

2．休業は、本人が申し出た期間が満了する日又は休業事由が消滅した日をもって終了する。

3．やむを得ない事由のある場合は、あらかじめ申し出た休業期間が満了する2週間前の日までに、本学所定の「介護休業期間変更届」により申し出て、1回に限り、休業期間の延長又は短縮をすることができる。

但し、通算して第1項に定める3ヶ月をこえることはできない。

（給与等の取扱い）

第5条　休業期間中は、標準給与の100分の20の介護休業給を支給する。

但し、休業終了後1年以内に退職したときは、休業期間中に支払われた介護休業給を返還しなければならない。

2．昇給については、休業期間中は実施しないものとし、復職後の昇給は、休業期間に等しい期間昇給を延伸する。

3．期末手当については、算定対象期間内の休業した期間分については、支給しない。

4．退職金の勤続期間算定については、復職後3ヶ月以上勤務したときは、休業期間の2分の1の期間を勤続期間に算入する。

（住民税・私立学校教職員共済組合貸付金等の取扱い）

第6条　休業期間中の住民税・私立学校教職員共済組合貸付金等の返済金等が、介護休業給額を超過する場合は、その超過額を、当該月の末日までに、本学の指定する銀行口座に振込まなければならい。

（年次有給休暇）

第7条　年次有給休暇の算定の基礎となる全労働日については、休業期間を除外した日数をもって、全労働日とする。

（復職後の取扱い）

第8条　復職後の処遇は、休業前の格付けを下回らないものとし、休業直前の所属及び職務とするが、特別の事情のある場合は、業務上の都合及び本人の事情等を勘案した上で、個々に決定することができる。

（解雇その他不利益扱いの禁止）

第9条　職員が、休業を申し出あるいは休業したことを理由として、解雇その他不利益な取り扱いをすることはないものとする。

（介護短時間勤務）

第10条　第2条の各号に該当する職員が、所定内勤務時間の一部の休業を希望する場合、1日連続4時間を限度として次の各号により、休業することができる。

(1) 休業の申し出については、第3条及び第4条を準用する。

(2) 本条の適用を受ける期間の給与については、給与規則第8条の賃金月額を時

間給換算した額を基礎とし、その休業時間分の2割額を介護休業給として支給する。

(3) 期末手当は、その算定対象期間の休業した総時間分については支給しない。

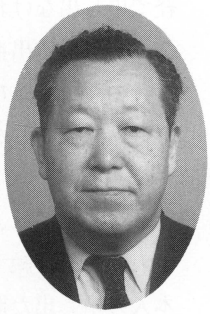
(4) 昇給及び勤続年数の算定に当たっては、本条の適用を受ける期間は通常の勤務をしているものとみなす。

Ⅱ. 附則を次のとおりとすること。

1. この規程は、平成7年4月1日から施行する。

以　上

新学長に藤本　守氏（生理学第2講座担当教授）



現松本秀雄学長は、平成7年5月末日をもって任期満了により退任されるため、本学学長予定者選考規程に基づき次期学長予定者の選考が行われました。学内から中井益代氏（微生物学講座担当教授）、藤本　守氏（生理学第2講座担当教授）、学外から下山　誠氏（島根医科大学副学長）の3名が立候補され、選挙が行われました結果、藤本守氏が次期学長予定者に決定しました。この結果に基づき、4月7日開催の教授会の審議を経たうえ、4月18日に開催された理事会において、平成7年6月1日から学長として同氏を任命することが決定致しました。

人　事

法　人

監事就任	上田　次郎		4. 1
評議員退任	辻倉　忠男		3.31
〃　就任	多田　數義		4. 1

名誉教授称号授与

杉本　修	（前産婦人科教授）	4. 1

〔採　用〕

助　手	髙瀬　卓志	（脳神経外科学）	2.16
〃	髙田　興	（内科学Ⅱ）	3. 1
〃	本合　泰	（〃）	〃
用務員	杉浦多寿子	（病院事務部栄養給食課）	3.16
助　手	成山　硬	（病理学Ⅰ）	4. 1
〃	福西　惠一	（病理学Ⅰ）	〃
〃	福井　威志	（微生物学）	〃
〃	霜野　良一	（内科学Ⅱ）	〃
助　手	鈴木　周平	（小児科学）	4. 1
〃	秋元　寛	（一般・消化器外科学）	〃
〃	森本　眞美	（麻酔科学）	〃
〃	矢本　真城	（〃）	〃
〃	岡﨑　審	（産婦人科学）	〃
〃	鈴木　佳彦	（〃）	〃
〃	中田　和伸	（放射線医学）	〃
〃	村尾　仁	（中央検査部）	〃
〃	髙尾雄二郎	（病院）	〃
事務員	吉田　有里	（総務部庶務課）	〃
〃	横江　泰男	（総務部教務課）	〃
〃	小野　裕	（財務部会計課）	〃
〃	石田　行栄	（病院事務部医事第一課）	〃
〃	沼　直美	（〃）	〃
〃	吉田　佳代	（〃）	〃
〃	橋内　直子	（病院事務部医事第二課）	〃

技術員	明石　静香	（病理学Ⅰ）	4.1
〃	上門　健一	（病院放射線科）	〃
〃	熊井　由昌	（病院放射線科）	〃
〃	高山　竜二	（病院リハビリテーションセンター）	〃
〃	川村　典子	（病院輸血室）	〃
〃	黒木みどり	（　〃　）	〃
〃	中島　涼子	（　〃　）	〃
〃	井殿　佳子	（病院事務部栄養給食課）	〃
〃	岩出　夕子	（　〃　）	〃
技術補助員	岡　千春	（病院放射線科）	〃
技能員	藤田　孝輔	（病院事務部施設課）	〃
〃	高木　篤	（　〃　）	〃
〃	川見日登美	（病院事務部栄養給食課）	〃
〃	木村　誠二	（　〃　）	〃
用務員	吉田美津代	（病院事務部栄養給食課）	〃
嘱託	辻倉　忠男	（総務部庶務課）	〃
〃	村上　幸彦	（　〃　）	〃
〃	中村　高荘	（総務部保安課）	〃
看護婦	青井　裕美	（病院看護部）	〃
〃	新垣さおり	（　〃　）	〃
〃	有馬　覚恵	（　〃　）	〃
〃	有馬　貴子	（　〃　）	〃
〃	有吉　智子	（　〃　）	〃
〃	池　智代	（　〃　）	〃
〃	池添　香苗	（　〃　）	〃
〃	石黒　裕子	（　〃　）	〃
〃	伊東美智子	（　〃　）	〃
〃	稲田　奈々	（　〃　）	〃
〃	稲田有喜子	（　〃　）	〃
〃	今井　知恵	（　〃　）	〃
〃	岩城　章恵	（　〃　）	〃
〃	岩屋こずえ	（　〃　）	〃
〃	上田　淳子	（　〃　）	〃
〃	内谷　香	（　〃　）	〃
〃	内野ほづみ	（　〃　）	〃
〃	梅本里枝子	（　〃　）	〃
〃	江崎由美子	（　〃　）	〃

看護婦	大石　千夏	（病院看護部）	4.1
〃	太田　浄美	（　〃　）	〃
〃	岡田　美紀	（　〃　）	〃
〃	小川　綾	（　〃　）	〃
〃	海戸　徳子	（　〃　）	〃
〃	梶原　晴美	（　〃　）	〃
〃	勝田　祐子	（　〃　）	〃
〃	亀井　貴子	（　〃　）	〃
〃	川上　和美	（　〃　）	〃
〃	川上　広美	（　〃　）	〃
〃	河野あずさ	（　〃　）	〃
〃	河野　みえ	（　〃　）	〃
〃	川村　美佳	（　〃　）	〃
〃	北村　早苗	（　〃　）	〃
〃	木下　紀子	（　〃　）	〃
〃	楠本　裕子	（　〃　）	〃
〃	久保田磨由子	（　〃　）	〃
〃	倉　雅子	（　〃　）	〃
〃	黒瀬　ルミ	（　〃　）	〃
〃	黒田　聖子	（　〃　）	〃
〃	黒部　恵	（　〃　）	〃
〃	河野ちずる	（　〃　）	〃
〃	小暮　ゆり	（　〃　）	〃
〃	小脇美記子	（　〃　）	〃
〃	後藤　育子	（　〃　）	〃
〃	後藤みゆき	（　〃　）	〃
〃	酒匂　美香	（　〃　）	〃
〃	里　由紀子	（　〃　）	〃
〃	重見　理恵	（　〃　）	〃
〃	清水　慶子	（　〃　）	〃
〃	下園　陽子	（　〃　）	〃
〃	小路　敬子	（　〃　）	〃
〃	城月麻由美	（　〃　）	〃
〃	新藤佐知子	（　〃　）	〃
〃	末永　智子	（　〃　）	〃
〃	菅原　敬子	（　〃　）	〃
〃	鈴木　裕美	（　〃　）	〃
〃	田池　泰子	（　〃　）	〃

看護婦	瀧本登貴子	（病院看護部）	4. 1
〃	竹内　純子	（　〃　）	〃
〃	田中　聖子	（　〃　）	〃
〃	田中　一美	（　〃　）	〃
〃	田中　宏美	（　〃　）	〃
〃	谷　晴美	（　〃　）	〃
〃	玉田　順子	（　〃　）	〃
〃	辻井　則子	（　〃　）	〃
〃	鶴川　香織	（　〃　）	〃
〃	寺井　絵美	（　〃　）	〃
〃	冨岡　智子	（　〃　）	〃
〃	中尾　由美	（　〃　）	〃
〃	中川　典子	（　〃　）	〃
〃	西村佳奈子	（　〃　）	〃
〃	西村　麻紀	（　〃　）	〃
〃	西山　由美	（　〃　）	〃
〃	二宮　豊恵	（　〃　）	〃
〃	沼田かおり	（　〃　）	〃
〃	野澤　志保	（　〃　）	〃
〃	波江野寧子	（　〃　）	〃
〃	橋本　知恵	（　〃　）	〃
〃	服部由香子	（　〃　）	〃
〃	東　由希子	（　〃　）	〃
〃	平尾　妙子	（　〃　）	〃
〃	平尾　美紀	（　〃　）	〃
〃	平河奈津子	（　〃　）	〃
〃	廣瀬　史子	（　〃　）	〃
〃	細川　典子	（　〃　）	〃
〃	前川　絵美	（　〃　）	〃
〃	松尾　和江	（　〃　）	〃
〃	松本さおり	（　〃　）	〃
〃	宮本　恵美	（　〃　）	〃
〃	村木　美栄	（　〃　）	〃
〃	室谷　和代	（　〃　）	〃
〃	森岡　理香	（　〃　）	〃
〃	矢鳴　輝恵	（　〃　）	〃
〃	矢伏　博江	（　〃　）	〃
〃	山口　陽子	（　〃　）	〃
〃	山下　淳子	（　〃　）	〃
〃	山中　千春	（　〃　）	〃
〃	山中富美子	（　〃　）	〃
〃	吉原美由紀	（　〃　）	〃
看護婦	渡辺　由香	（病院看護部）	4. 1
准看護婦	清水　由香	（　〃　）	〃
〃	中井　明子	（　〃　）	〃
〃	福吉　千寿	（　〃　）	〃
〃	藤井　美佳	（　〃　）	〃
看護事務員	池内　美紀	（　〃　）	〃
〃	加田　早苗	（　〃　）	〃
〃	豊留　美穂	（　〃　）	〃
〃	長友絵利佳	（　〃　）	〃
〃	吉金美沙緒	（　〃　）	〃
看護助手	石倉　文	（　〃　）	〃
〃	牧谷　知幸	（　〃　）	〃
看護補助員	増田詠美子	（　〃　）	〃
助手	三宅　宗典	（小児科学）	4.16
〃	藤原　正隆	（内科学Ⅰ）	5. 1
〃	長谷川　稔	（内科学Ⅱ）	〃
〃	芦田　明	（小児科学）	〃
〃	白井　久也	（整形外科学）	〃
〃	金　信行	（産婦人科学）	〃
看護補助員	小野　明美	（病院看護部）	〃

〔退　職〕

助手	稲多　正充	（脳神経外科学）	2.15
学内講師	三好　博文	（内科学Ⅱ）	2.28
助手	髙島　哲哉	（　〃　）	〃
助手	辰井　光	（整形外科学）	2.28
用務員	田中美恵子	（病院事務部 栄養給食課）	〃
看護婦	重年　清香	（病院看護部）	〃
助手	山名　健	（麻酔科学）	3.15
看護婦	井田　みき	（病院看護部）	〃
教授	溝井　泰彦	（法医学）	3.31
〃	杉本　修	（産婦人科学）	〃
診療教授	西村　忠史	（小児科学）	〃
講師	萩原　暢子	（生理学Ⅱ）	〃
〃	宋　景富	（薬理学）	〃
〃	北川　眞	（小児科学）	〃
助手	藤原　正隆	（内科学Ⅰ）	〃
〃	長谷川　稔	（内科学Ⅱ）	〃
〃	髙田　興	（　〃　）	〃
〃	三宅　宗典	（小児科学）	〃
〃	手塚　清隆	（一般・消化器外科学）	〃

助手	石津　恒彦	（整形外科学）	3.31
〃	芦名　謙介	（放射線医学）	〃
〃	栗山　隆信	（中央検査部）	〃
〃	阪口　正博	（病　　院）	〃
事務局長	辻倉　忠男	（事　務　局）	〃
事務局長付	鈴木　豊明	（　〃　）	〃
課長補佐	新郷　満雄	（病院事務部 施設課）	〃
主任	千川卯一郎	（病院事務部 栄養給食課）	〃
事務員	伊藤由美子	（病院事務部 医事課）	〃
〃	佐藤　雪絵	（　〃　）	〃
技術員	河野　通信	（病院リハビリテーションセンター）	〃
調理師	宮本　栄子	（病院事務部 栄養給食課）	〃
〃	宮久保サヨ子	（　〃　）	〃
嘱託	北国　芳郎	（病理学Ⅰ）	〃
婦長	三浦　町子	（病院看護部）	〃
臨床指導者	滝口　睦美	（　〃　）	〃
〃	早川　敦美	（　〃　）	〃
〃	高橋　由美	（　〃　）	〃
〃	野口　智香	（　〃　）	〃
〃	三根　京子	（　〃　）	〃
臨床指導者代理	竹澤　美紀	（　〃　）	〃
看護婦	中村　妙子	（　〃　）	〃
〃	天神さゆり	（　〃　）	〃
〃	吉田真由美	（　〃　）	〃
〃	岩増佳津子	（　〃　）	〃
〃	大山千鶴代	（　〃　）	〃
〃	荻久保康子	（　〃　）	〃
〃	岸本　増美	（　〃　）	〃
〃	齋坂木綿子	（　〃　）	〃
〃	永田美砂子	（　〃　）	〃
〃	西山　智代	（　〃　）	〃
〃	野角しのぶ	（　〃　）	〃
〃	古川麻紀子	（　〃　）	〃
〃	牧　　広美	（　〃　）	〃
〃	芥川　清香	（　〃　）	〃
〃	浅津　朋代	（　〃　）	〃
〃	内田　博子	（　〃　）	〃
〃	岸　あづさ	（　〃　）	〃

看護婦	桐原　夏香	（病院看護部）	3.31
〃	上内あかね	（　〃　）	〃
〃	中富　和美	（　〃　）	〃
〃	永尾　千恵	（　〃　）	〃
〃	羽賀田ゆみ	（　〃　）	〃
〃	本多　保子	（　〃　）	〃
〃	前原真由美	（　〃　）	〃
〃	中村　恵子	（　〃　）	〃
〃	礒貝　容子	（　〃　）	〃
〃	加藤　祐子	（　〃　）	〃
〃	河津　織子	（　〃　）	〃
〃	古賀布美子	（　〃　）	〃
〃	島本　聖香	（　〃　）	〃
〃	田村　朋子	（　〃　）	〃
〃	永久　教子	（　〃　）	〃
〃	松冨　要子	（　〃　）	〃
〃	満尾真由美	（　〃　）	〃
〃	三宅　貴子	（　〃　）	〃
〃	山田真由美	（　〃　）	〃
〃	山西　貴子	（　〃　）	〃
〃	伊賀　由里	（　〃　）	〃
〃	尹　　支妙	（　〃　）	〃
〃	川瀬　純与	（　〃　）	〃
〃	近藤　智恵	（　〃　）	〃
〃	篠田　智美	（　〃　）	〃
〃	寺石　育世	（　〃　）	〃
〃	藤村　久代	（　〃　）	〃
〃	松本　典子	（　〃　）	〃
〃	室井　悦子	（　〃　）	〃
〃	山本　葉子	（　〃　）	〃
〃	吉本　綾子	（　〃　）	〃
〃	久保美佐江	（　〃　）	〃
〃	杉本　甯子	（　〃　）	〃
〃	相羽　初美	（　〃　）	〃
〃	大郷久美子	（　〃　）	〃
〃	加藤美由紀	（　〃　）	〃
〃	木俣美保子	（　〃　）	〃
〃	國本　佳美	（　〃　）	〃
〃	下元　恵美	（　〃　）	〃
〃	滝本ともえ	（　〃　）	〃
〃	中村　利恵	（　〃　）	〃
〃	永田　智子	（　〃　）	〃

看護婦	森﨑　由美	（病院看護部）	3.31
〃	山本　範子	（　〃　）	〃
〃	上田　暢子	（　〃　）	〃
〃	芦田真土香	（　〃　）	〃
〃	荒川八重美	（　〃　）	〃
〃	佐々木由香	（　〃　）	〃
〃	田村　惠子	（　〃　）	〃
〃	千葉　睦	（　〃　）	〃
〃	恒川　良美	（　〃　）	〃
准看護婦	藤川美智子	（　〃　）	〃
保母	浅尾エミ子	（　〃　）	〃
看護事務員	氏原　春美	（　〃　）	〃
〃	糸田川千代子	（　〃　）	〃
〃	惠山　佳織	（　〃　）	〃
〃	溝部　道子	（　〃　）	〃
〃	是澤　陽子	（　〃　）	〃
看護補助員	南元　末野	（　〃　）	〃
〃	常深　笑子	（　〃　）	〃
専任教員	小谷智惠子	（看護専門学校）	〃
〃	浅野　民子	（　〃　）	〃
助教授	青木　一郎	（物理学）	4.30
講師	長谷川義博	（皮膚科学）	〃
助手	安積　正作	（病理学Ⅰ）	〃
〃	川村　尚久	（小児科学）	〃
技術補助員	島　弘子	（病院リハビリテーションセンター）	〃
准看護婦	宮脇　美奈	（病院看護部）	〃

〔昇格・異動〕

昇格

物理学教授	田中　正寛	（講師）	4. 1
法医学教授	鈴木　廣一	（助教授）	〃
産婦人科学教授	植木　實	（　〃　）	〃
眼科診療教授	渡邉　千舟	（　〃　）	〃
中央検査部診療教授	友田　恒典	（病態検査学助教授）	〃
〃	堤　啓	（助教授）	〃
生理学Ⅰ講師	吉田　秀世	（助手）	〃
小児科学講師	玉井　浩	（学内講師）	〃
事務局事務局長兼総務部長	多田　數義	（総務部総務部長）	〃
看護専門学校事務長代理	絹見　紀一	（総務部教務課教務課長補佐）	〃
中央手術部技術主任	八尾　好純	（技術主任代理）	〃
栄養給食課技能員	狭間　節子	（用務員）	〃
病院看護部看護婦長代理	西山　裕子	（看護専門学校専任教員）	4. 1
病院看護部看護婦主任	広兼　静子	（看護婦主任代理）	〃
病院看護部看護婦主任代理	高橋　典子	（臨床指導者）	〃
〃	辻尾　敦宏	（　〃　）	〃
〃	中島由美子	（看護婦）	〃
〃	福岡　珠美	（　〃　）	〃
〃	西田　優子	（　〃　）	〃
〃	福永　知子	（　〃　）	〃
病院看護部臨床指導者	黒岩　真紀	（臨床指導者代理）	〃
〃	小倉真奈美	（　〃　）	〃
〃	高橋　知子	（　〃　）	〃
〃	葛城　順子	（　〃　）	〃
	長谷川小夜子	（　〃　）	〃
〃	佐藤　美幸	（　〃　）	〃
〃	山田富美子	（　〃　）	〃
〃	吉川　由香	（　〃　）	〃
〃	柏原　幸治	（看護士）	〃
病院看護部臨床指導者代理	岩坪ゆう子	（看護婦）	〃
〃	村井　教子	（　〃　）	〃
薬理学講師	塩田　直孝	（助手）	4.16
小児科学講師	田中　英高	（学内講師）	〃
生理学Ⅱ講師	久保川　学	（助手）	5. 1

異動

総務部庶務課看護婦主任	平野しみず	（病院看護部看護婦主任）	4. 1
総務部教務課教務課長代理兼教養部課長補佐	成松　正治	（教務課長代理）	〃
病院事務部医事第一課長	西川　昭	（病院事務部医事課長）	〃

病院事務部 医事第一課長代理	楠　善行	（病院事務部 医事課長代理）	4. 1
病院事務部 医事第一課長補佐	井関　隆	（病院事務部 医事課長補佐）	〃
〃	田村　悦雄	（　〃　）	〃
〃	蔵本　勝彦	（　〃　）	〃
病院事務部 医事第一課主任	長島　久子	（病院事務部 医事課主任）	〃
〃	青山早智子	（　〃　）	〃
〃	木村　正士	（　〃　）	〃
〃	松崎美津代	（　〃　）	〃
病院事務部 医事第二課長	稲葉　護	（病院事務部 医事課長）	〃
病院事務部 医事第二課長代理	福島　猛	（病院事務部 医事課長代理）	〃
〃	小島　正	（　〃　）	〃
病院事務部 医事第二課長補佐	桐山　賢良	（病院事務部 医事課長補佐）	〃
病院事務部 医事第二課主任	井上　妙子	（病院事務部 医事課主任）	〃
〃	田村美由紀	（　〃　）	〃
〃	小林　詩子	（　〃　）	〃
病院事務部 医事第二課会計主任	津田　正博	（病院事務部 医事課会計主任）	〃
病院事務部 医事第二課病歴室主任	金森ひろ子	（病院事務部 医事課病歴室主任）	〃
看護専門学校 専任教員	藤田　幸子	（病院看護部 臨床指導者）	〃
〃	小牟田美幸	（　〃　）	〃
〃	安徳　秀子	（病院看護部 看護婦）	〃

〔休職・復職〕

休　職

助手	山元　章示	（内科学Ⅲ）	4. 1
看護婦	森本美智子	（病院看護部）	〃
〃	菅原　敬子	（　〃　）	〃
准看護婦	熊田　真美	（　〃　）	〃
助手	水口　博之	（医化学）	5. 1

復　職

助手	久保川　学	（生理学Ⅱ）	3.22
〃	矢野　貴人	（医化学）	4. 1
看護婦	古川　智子	（病院看護部）	〃
〃	山下　智子	（　〃　）	〃
助手	西本　泰久	（胸部外科学）	4. 6

〔委嘱・解嘱〕

委　嘱

学内講師

助手	中西　豊文	（病態検査学）	2.16
〃	盧田　潔	（内科学Ⅱ）	3.16
〃	境　晶子	（化学）	5. 1

医学情報処理センター長

教授	大澤　仲昭	（内科学Ⅰ）	4. 1

同上副センター長

教授	東　郁郎	（眼科学）	4. 1

同上運営委員会委員

教授	千原精志郎	（心理学）	4. 1
〃	楢林　勇	（放射線医学）	〃
助教授	小寺　邦彦	（生理学Ⅱ）	〃

機器共同利用センター長

教授	清水　章	（病態検査学）	4. 1

同上副センター長

教授	島田　眞久	（解剖学Ⅱ）	4. 1

学生部長

教授	鏡山　博行	（医化学）	4. 1

実験動物センター長

教授	今井　雄介	（生理学Ⅰ）	4. 1

同上運営委員会委員

教授	今井　雄介	（生理学Ⅰ）	4. 1
助教授	東　克	（生物学）	〃
講師	窪田　隆裕	（生理学Ⅱ）	〃
〃	前田　環	（病理学Ⅱ）	〃
〃	三宅　裕治	（脳神経外科学）	〃
学内講師	石井　権二	（薬理学）	〃

進学課程主事

教授	山崎　隆司	（ドイツ語）	4. 1

健康管理医兼衛生管理者

助手	坂根　貞樹	（内科学Ⅰ）	4. 1

平成７年度同和教育推進委員会委員

教授	矢次　正利	（哲学）	4. 1
〃	芝山　雄老	（病理学Ⅰ）	〃
〃	佐々木進次郎	（胸部外科学）	〃
助教授	西村保一郎	（数学）	〃
〃	古川　哲夫	（口腔外科学）	〃
講師	小西　正良	（解剖学Ⅱ）	〃
〃	後藤　俊幸	（微生物学）	〃
助手	藤原　裕樹	（耳鼻咽喉科学）	〃
〃	盧　信夫	（麻酔科学）	〃

課　　長　西田　伸忠（総務部教務課）　〃
課長代理　福島　　猛（病院事務部医事第二課）　〃

同上委員会委員長

教　　授　矢次　正利（哲　　学）　4. 1

動物実験委員会委員

教　　授　山崎　隆司（ドイツ語）　4. 1
〃　　今井　雄介（生理学Ⅰ）　〃
〃　　森　　浩志（病理学Ⅱ）　〃
講　　師　窪田　隆裕（生理学Ⅱ）　〃
学内講師　石井　権二（薬　理　学）　〃
　　金田しのぶ（高槻保健所長）　〃

治験審査委員会委員

事務局長　多田　數義（事　務　局）　4. 1

倫理委員会委員

教　　授　島田　眞久（解剖学Ⅱ）　4. 1

同上委員長

教　　授　高橋　宏明（耳鼻咽喉科学）　4. 7

同上副委員長

教　　授　堺　　俊明（神経精神医学）　4. 7

図書館長候補者推薦委員会委員

教　　授　古谷　榮助（化　　学）　4.19
〃　　大槻　勝紀（解剖学Ⅰ）　〃
助教授　渡辺　正仁（解剖学Ⅱ）　〃
〃　　阿部　宗昭（整形外科学）　〃
講　　師　宮本　　学（生理学Ⅰ）　〃
〃　　石原　　正（内科学Ⅰ）　〃
助　　手　森　　禎章（生理学Ⅱ）　〃
助　　手　桶田　正成（整形外科学）　4.19

同上委員長

教　　授　大槻　勝紀（解剖学Ⅰ）　4.20

図書館長選挙管理委員会委員

教　　授　芝山　雄老（病理学Ⅰ）　4.19
〃　　植木　　實（産婦人科学）　〃
診療教授　陰山　　克（内科学Ⅱ）　〃
助教授　佐野　浩一（微生物学）　〃
〃　　河野　公一（衛生学・公衆衛生学）　〃
課長補佐　茂幾　周治（図　書　館）　〃

同上委員長

教　　授　植木　　實（産婦人科学）　4.20

解　嘱

跡地利用委員会委員長

理　　事　武内　敦郎　3.14

同上委員

理　　事　武内　敦郎　3.14
〃　　松本　秀雄　〃
〃　　中井　益代　〃
〃　　北村　八郎　〃
〃　　美濃　　眞　〃
看護専門学校　小野村敏信　〃
参　　与　松村　　實　〃

健康管理医兼衛生管理者

助　　手　馬嶋　素子（内科学Ⅰ）　3.31

〔海外渡航〕

帰　学

久保川　学（生理学Ⅱ講師）
　アメリカ（エール大学）5. 1.12～7.3.21
矢野　貴人（医化学助手）
　アメリカ（カリフォルニア大学、バークレー校）5. 4. 1～7. 3. 31

留　学

水口　博之（医化学助手）
　アメリカ（テキサス大学）5. 1～8. 4.30

出　張

相馬　義郎（生理学Ⅰ助手）
　アメリカ（サンフランシスコ）2.11～2.25
永田　裕人（整形外科学助手）
　アメリカ（オーランド）2.11～2.21
川村　尚久（小児科学助手）
　アメリカ（サンディエゴ）2.15～2.20
奥　　英弘（眼科学助手）
　香港　3. 6～3.10
諏訪　道博（内科学Ⅲ学内講師）
　アメリカ（ニューオーリンズ）3.19～3.24
田中　孝生（内科学Ⅲ講師）
　アメリカ（ニューオーリンズ）3.23～3.29
小野村敏信（整形外科学教授）
永田　裕人（　〃　助手）
　オーストラリア（メルボルン）4. 1～4. 7
足立　　至（放射線医学講師）
　フランス（カンヌ）4.23～4.30
平井　　景（泌尿器科学助手）
　アメリカ（ラスベガス）4.24～4.30
後藤　俊幸（微生物学講師）
　中国（武夷市）4.29～5. 8

教　室　紹　介

小児科学教室

健やかな成長を願って

基礎・臨床・交流で成果

大阪医科大学小児科学教室は美濃　眞教授のもと佐々木聖講師（アレルギー）、小西和孝講師（糖尿病・内分泌）、玉井　浩講師（神経・栄養）、田中英高講師（心身症・自律神経）、そして周産期センター岡本良三助教授を中心に臨床・教育・研究を行っている。現在医局員数は83名で、大学および関連26施設において診療に携わっている。年２回の学術集会と年４回の合同症例検討会、毎月行われる各研究グループのリサーチ・ミーティングを通じて大学と、関連施設のスタッフの交流が計られている。

教室は長年、ウイルス・細菌感染症、アレルギーを主なテーマとしてきたが、昭和49年の現美濃教授の就任以後は、これらに加え、教室員の増加と共に臨床面、研究面、関連施設等すべての面において飛躍的な拡大発展をとげ現在に至っている。

教室のテーマは大きくまとめて表現するとすれば＜Aging＞である。少子化と疾病構造の変化する中で子ども達の健やかな成長を願って、このテーマの下に臨床・研究の各グループが互いの連携を取りながら頑張っている。

基礎的研究としては、ビタミンＥの総合的な栄養学的評価からスタートし、ビタミンＥによるフリーラジカル消去作用の証明、生体膜での抗酸化活性を検討し、Wilson 病、ホモシスチン尿症などフリーラジカル障害の関与する疾患へと臨床的なつながりへと発展させている。またβカロチンの生体膜からの微量測定法を開発し、新生時期でのビタミンＡへの転換の可能性、ラジカル消去作用の解明へと進展してきた。

臨床面では、フィールドワークとして地元行政・教育関係の協力も得て、小児成人病予防の見地から昭和52年より肥満児検診や食後尿糖スクリーニングを行い、その中から20数名の NIDDM を発見するなど疫学的な成績を残してきた。IDDM も＜大阪くるみの会＞サマーキャンプを主催し、今年で13年を数え、大阪北部地域における小児糖尿病診療の基幹病院としての役割を担っている。その他、定量的な自律神経機能評価法の開発など、近年増加傾向にある不定愁訴児への対応にも積極的に取り組み、＜子ども達の健常な大人への発育＞という観点から各グループが常に Up to date なアプローチを試みているといえる。

（文責　講師 小西　和孝）

平成７年度入学試験及び国家試験状況

平成７年度入学試験状況

		志願者数	受験者数	入学者数
医学部医学科		人 1,185	人 1,029	人 102
大学院医学研究科		30	29	26
看護専門学校	第一看護学科	318	273	43
	第二看護学科	96	85	36

医師国家試験状況

第89回医師国家試験

		新卒	既卒
受験者数	119名	108名	11名
合格者数	107名	100名	7名
合格率	89.9%	92.6%	63.6%

（全国平均　86.0%、私立医大平均80.3%）

	受験者数	合格者数
第一看護学科	47名	46名
第二看護学科	46名	42名

平成７年度　主なる事業計画

平成７年度主なる事業は、次の通りである。

A）阪神・淡路大震災被災施設改修工事等

1. 被災施設改修工事
2. 被災備品整備費

B）研究診療設備拡充計画

1. 生体機能・形態解析システム　1式
2. マルチメディア対応型教育実習支援システム　1式
3. 窒素・炭素同位体比質量分析計　1式
4. カセッテレス多軌道断層撮影装置　1式
5. 泌尿器撮影装置　1式
6. 末梢血幹細胞分離機　1式
7. 全身照射（TBI）用撮影装置　1式
8. X線CTスキャナ装置　1式
9. 医療用テレメーター　1式
10. 磁気テープ処理装置　1式

C）教育実習用機器整備計画

D）施設改修整備計画

1. 総合研究棟１階跡地改造工事
2. 看護専門学校第一看護学科校舎二重窓工事
3. 看護専門学校旧図書室改造工事
3. 附属病院１～２階スプリンクラー増設工事
5. 附属病院無菌室改修工事
6. 附属病院病棟詰所エアコン増設工事
7. 附属病院屋上全面防水改修工事
8. 附属病院塗装改修工事
9. 看護婦寮（愛泉寮）６～７号館エアコン取替工事

＝平成７年度入学式＝

1）医学部医学科

４月10日（月）午後２時より102名

於　大学臨床第一講堂

2）大学院医学研究科

４月14日（金）午後２時より26名

於　大学臨床第一講堂

3）看護専門学校

４月11日（火）午後２時より

第一看護学科　47名

第二看護学科　46名

於　大学臨床第一講堂

＝平成６年度卒業式＝

1）医学部医学科

３月25日（土）午後２時より108名

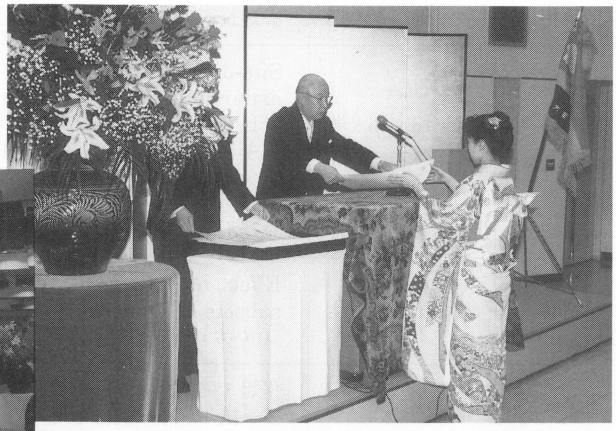
於　大学臨床第一講堂

2）看護専門学校

第一看護学科（10回生）43名

第二看護学科（26回生）36名

於　大学臨床第一講堂



↑ 医学部卒業式

←医学部新入生と教員の懇親会

大阪医科大学俳句会（二／三／四月）

薬喰御法度のなき世なりけり　塚本　務人

坊様は坊主頭や寒の入　今井　雄介

一日の思案に暮るるチューリップ　藤澤　良行

春燈やこの家どこもよく軋む　中川　一成

竜の玉陶の蛙は子を背負ひ　塚本　妙子

幼子にわしづかみされし雛かな　西中　弘

雀の子一日殊勝の通信簿　奥田　筆子

苗売りが釣銭さつと揃へたり　吉田　孝江

振る袖に二十才の春の溢れ出づ　宮崎　真紀

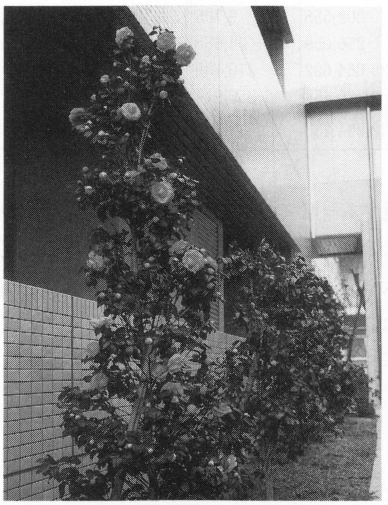
春風や領白なるが彼我公平　山崎　隆司

平成７年度（第１回）学位記授与

今回は25名の申請につき所定の審査が行われた結果、３月22日付けをもって博士（医学）の学位が授与された。

番　号	氏　名	論　文　題　名
甲第489号	伊藤　奏	Donor Specific Blood Transfusion による移植心生着延長効果と suppressor cell の誘導
甲第490号	河端博也	超音波断層診断による頚部脊髄症の術後成績の予測
甲第491号	長岡孝恭	脚延長術における骨格筋の伸長に関する実験的研究
甲第492号	大田和美	Site-directed mutagenesis of the histamine H_1 receptor : Roles of aspartic acid^{107}, asparagine^{198} and threonine^{194} （ヒスタミンH_1レセプターの部位特異的変異導入法による解析：アスパラギン酸残基107、アスパラギン残基198およびスレオニン残基194の役割について）
甲第493号	福井威志	免疫不全ウイルスコアの分離とその形態構造
甲第494号	村田卓士	Effect of long-term administration of β-carotene on lymphocyte subsets in humans （β-カロチン長期投与のヒト・リンパ球分画に与える影響について）
甲第495号	杉本憲治	平坦・陥凹型大腸腫瘍の免疫組織化学的研究 —抗 PCNA 抗体を用いて—
甲第496号	土手友太郎	Combined Effect of Fluoride and Calcium Administration on Experimental Postmenopausal Osteoporosis with and without Kidney Dysfunction （腎機能低下を伴う実験的卵巣摘出に伴う骨粗鬆症に対する弗素およびカルシウム投与の影響）
甲第497号	浦野　透	肺梗塞の発生機序に関する実験的研究 —肺動脈血流途絶および換気不全の意義—
甲第498号	森信孝雄	Changes in β-Carotene Levels by Long-Term Administration of Natural β-Carotene Derived from *Dunaliella bardawil* in Humans （微細藻類 *Dunaliella bardawil* 由来の天然 β-カロテン長期投与によるヒト血中 β-カロテンの変化）
甲第499号	田辺卓也	Evaluation of vitamin E status in the institutionalized Japanese elderly with respect to tocopherol levels in plasma, blood cells, and buccal mucosal cells （病院入院中の日本人高齢者における血漿、血液細胞、頬粘膜細胞中トコフェロール値よりのビタミンＥ栄養評価）
甲第500号	中田和伸	Evaluation of the ventilation-perfusion ratio in lung diseases by simultaneous anterior and posterior image acquisition （肺疾患における前後対向同時収集による換気血流比の検討）
乙第650号	渡辺美鈴	Fluoride contents in foodstuffs and influence of various foods intake on urinary fluoride concentration （食品中フッ素量と食品摂取による尿中フッ素濃度への影響について）

番　号	氏　名	論　文　題　名
乙第651号	網　岡　勝　見	胃癌間質反応とその誘導に関する研究 —胃癌細胞周期からみたグリコサミノグリカンの検討—
乙第652号	金　川　泰一朗	胃癌における HLA-DR 抗原発現に関する免疫組織化学的研究
乙第653号	福　本　吉　人	糖尿病患者における楕円瞳孔 —暗順応時瞳孔面積測定法による検討—
乙第654号	仁　木　正　己	胃癌の発育・進展における TGF-β の役割に関する研究 —とくにスキルス胃癌の形成機序について—
乙第655号	稲　森　耕　平	各種鎮痛薬の痛覚閾値の変化についての検討
乙第656号	吉　井　　章	In Situ Localization of Ribosomal RNAs Is a Reliable Reference for Hybridizable RNA in Tissue Sections （Ribosomal RNA の局在を in situ ハイブリダイゼーションでみることは、組織切片のハイブリダイゼーション可能な RNA に対する信頼しうる基準となる）
乙第657号	長　田　啓　嗣	Dolichos biflorus agglutinin 結合性を指標とした乳癌悪性度の検討
乙第658号	加　藤　康　之	硬膜外麻酔でみられるカテーテルの前硬膜外腔迷入 —その発生率と臨床症状について—
乙第659号	杉　田　久美子	Effect of antimicrobial agents on chemotaxis of polymorphonuclear leukocytes （ヒト好中球遊走能に及ぼす抗菌薬の影響）
乙第660号	福　岡　淳　一	慢性喘息発作に対するステロイド剤の効果 —ピークフロー値の日内変動パターンに注目して—
乙第661号	谷　村　義　久	Studies on serum fluoride and bone metabolism in patients with long term hemodialysis （長期透析患者における血清弗素と骨代謝について）
乙第662号	田　中　義　一	ラットのエーテル麻酔下における血糖値とプロスタグランジンに関する研究



平成７年度・収支予算

資金収支予算

（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	平成７年度予算額	平成６年度予算額	増・減（△）	科目	平成７年度予算額	平成６年度予算額	増・減（△）
学生生徒等納付金収入	2,476,662	2,399,004	77,658	人件費支出	11,630,543	11,153,960	476,583
手数料収入	59,815	58,073	1,742	教育研究経費支出	11,181,034	10,804,058	376,976
医療収入	19,482,335	19,304,189	178,146	管理経費支出	1,038,582	941,197	97,385
寄付金収入	220,000	200,000	20,000	借入金等利息支出	167,393	173,743	△ 6,350
補助金収入	2,062,595	2,041,889	20,706	借入金等返済支出	1,248,392	1,383,276	△ 134,884
資産運用収入	432,559	470,323	△ 37,764	施設関係支出	318,458	1,330,068	△1,011,610
資産売却収入	9,668	0	9,668	設備関係支出	982,834	1,334,276	△ 351,442
事業収入	292,850	302,555	△ 9,705	資産運用支出	205,043	250,870	△ 45,827
雑収入	280,747	256,059	24,688	その他の支出	2,760,239	2,586,132	174,107
借入金等収入	1,089,600	1,220,000	△ 130,400	予備費	200,000	300,000	△ 100,000
前受金収入	1,313,837	1,250,675	63,162	資金支出調整勘定	△ 2,359,095	△ 2,483,201	124,106
その他収入	3,778,698	4,109,379	△ 330,681	次年度繰越支払資金	4,335,238	4,624,889	△ 289,651
資金収入調整勘定	△ 4,886,527	△ 4,777,635	△ 108,892				
前年度繰越支払資金	5,095,822	5,564,757	△ 468,935				
収入の部合計	31,708,661	32,399,268	△ 690,607	支出の部合計	31,708,661	32,399,268	△ 690,607

消費収支予算

（単位：千円）

消費収入の部				消費支出の部			
科目	平成７年度予算額	平成６年度予算額	増・減（△）	科目	平成７年度予算額	平成６年度予算額	増・減（△）
学生生徒等納付金	2,476,662	2,399,004	77,658	人件費	12,029,330	11,482,074	547,256
手数料	59,815	58,073	1,742	教育研究経費	12,512,980	12,063,984	448,996
医療収入	19,482,335	19,304,189	178,146	管理経費	1,122,295	1,025,139	97,156
寄付金	243,600	232,600	11,000	借入金等利息	167,393	173,743	△ 6,350
補助金	2,062,595	2,041,889	20,706	資産処分差額	8,150	18,304	△ 10,154
資産運用収入	432,559	470,323	△ 37,764	徴収不能額	3,500	3,500	0
資産売却差額	9,668	0	9,668	予備費	200,000	300,000	△ 100,000
事業収入	292,850	302,555	△ 9,705	消費支出の部合計	26,043,648	25,066,744	976,904
雑収入	280,747	256,059	24,688				
帰属収入合計	25,340,831	25,064,692	276,139				
基本金組入額合計	△ 1,413,544	△ 2,770,454	1,356,910				
消費収入の部合計	23,927,287	22,294,238	1,633,049	当年度消費支出超過額	2,116,361	2,772,506	

注：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で予算額に差異のある科目については下記の理由による。

1.「寄付金」には、資金収支予算上の寄付金のほかに、消費収支予算では現物寄付金が計上されている。
2.「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支予算では退職金支出額が計上されるのに対し、消費収支予算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
3.「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支予算上の支払経費のほかに、消費収支予算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

平成７年度収支予算について

平成７年度収支予算は法人評議員会の審議を経て平成７年３月31日開催の理事会において承認され成立しました。以下予算の概略についてご報告します。

学校法人会計基準に基づく収支予算には、資金収支予算と消費収支予算があります。前者は教育研究等学校法人の諸活動にかかるすべての収入及び支出の内容を明らかにするもので、後者は、企業会計の損益計算の仕組みを援用し、消費支出（費用）と消費収入（収入）の均衡の状態を明らかにするものです。

以下消費収支予算について述べます。

主な収入の状況

「学生生徒等納付金」は24億7666万円で11年振りに値上げ改定（但し新入生分より）されたこともあり帰属収入の構成比率は9.8％と漸く逓減に歯止めがかかりました。

「補助金」は20億6260万円前年度予算比9.8％約2000万円と小巾な増加を計上しておりますがこの中には震災による復旧関係の補助金約4,100万円も含んでおります。私立大学経常費補助金、施設設備費補助金、研究設備整備費補助金、臨床研修費補助金等の国庫補助金20億2288万円及び地方公共団体補助金3,972万円を見込んでおります。「資産運用収入」は４億3256万円で運用資産の減少もあり前年度比3,776万円の減収としております。

「医療収入」本年度は診療報酬の改定はなく最近の受診者数の減少その他種々厳しい環境にありますが、前年度予算額比１億7815万円0.9％の増収を見込んでいます。

主な支出の状況

「人件費」は120億2933万円、前年度予算額の4.8％増を計上（含退職給与引当金繰入額）帰属収入に占める人件費の割合は47.5％で前年度に比べ2.0％増加となります。

「教育研究経費」は125億1298万円。大学学部・大学院・看護専門学校における教育研究活動の全般に亘る必要経費です。前年度比3.7％増、医療材料費は医療収入予算の42.6％を計上しています。「管理経費」は11億2230万円で主として消耗品費、光熱水費、修繕費、賃借費等で増加（9.5％）が見込まれます。

資金収支予算

「施設関係収支」は本部・図書館棟建築工事関係支出が６年度に終了したことから前年度比10億1161万円の減少となります。「設備関係支出」は前記「施設関係支出」と同様の減少要因がありますが研究装置・医療用中央機器等総額で９億8283万円となっています。

収支（消費収支予算）の均衡状況

７年度の帰属収入は総額で253億4083万円（前年度比1.1％）の予算額ですが、一方消費支出は260億4365万円（前年度比3.9％増）となり７億282万円の支出超過となります。（基本金組入後の消費支出超過額は21億1636万円）教育研究・管理経費の増加率は医療収入の増加率を上廻り、帰属収入額だけでは人件費、諸経費等消費支出をカバーすることが出来ない極めて厳しい状況にあります。

今後とも教育・研究の環境整備等に資金需要は益々増大していくものと思われ、収支の均衡を計り財政基盤の安定化の為、なお一層の効率的予算管理を必要とすると考えます。

（財務部長　池田　良正）

註：「帰属収入」とは学校法人の負債とならない収入。

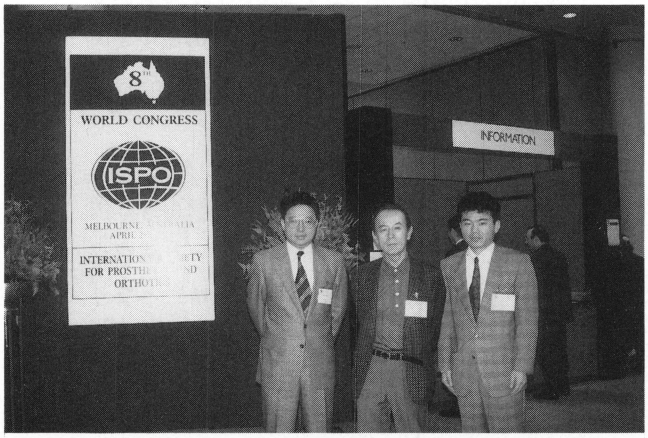
「消費収入」とは、学校法人が消費する資産または用役の金額。

「基本金組入額」とは、教育研究活動を行う上で必要な資産を自己資金で取得した額を帰属収入のうちから組み入れる金額。

海外出張記

第8回国際義肢装具学会（南半球初）に参加して

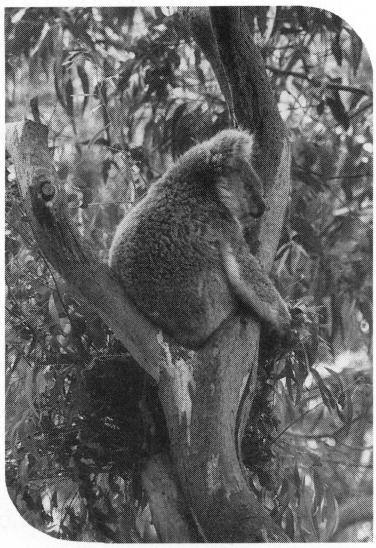
整形外科学教室助手
永田裕人



わが頚椎装具に大反響
なまる英語にとまどう

4月1日、整形外科学教室の小野村教授、リハビリテーションセンターの田辺理学療法士とともにカンタス航空のメルボルン直行便就航の第1便にて夕闇迫る関空をあとに一路オーストラリアへ向かった。未明にケアンズに立ち寄り、翌朝無事現地に到着した。そこは所々に落ち葉が見える初秋の気配（南半球は季節が反対）が感じられ気温は15度前後で湿度は低く心地よく、“人は右、車は左”の交通規則にも違和感がなく、時差も1時間と小さく身体は比較的疲れも感じることなく夜行列車の感覚で立ち上がることができた。

Pain（ペイン）はパイン！、Today（ツデイ）はツダイ！



しかし、しばらくすると聞こえてくるAustralian Englishは何となく耳慣れず、しっかり聞いていないと理解できないことに気づき、学会発表と展示討論を翌日に控えて少し不安となった。たとえば、stay（ステイ）はスタイ、O′kay（オッケイ）はオッカイ、today（ツデイ）はツダイ、eight（エイト）はアイト、maintain（メインテイン）はマインタインといった具合である。英米人が一種の方言として聞き流せるのと違い、日本人のわたしには一つ一つの単語を切り替えてセンテンスに組み立てたのち理解せねばならず、素直に入ってくるのに時間を要した。

さて、国際義肢装具学会（ISPO：International Society for Prosthetics and Orthotics）は発足からの歴史は整形外科関連の国際学会としては比較的古く、今回は第8回を数え（3年毎に開催されている）創立25周年記念“Silver Jubilee”にあたり、また、本学会が南半球で開催されるのは初めてであった。本学会に関しての教室の活動は、1980年ボローニャ（イタリア）での第3回大会においては小野村教授の開

発による脊柱側弯症に対する“大阪医科大学式矯正装具（OMC ブレース）”を紹介し、さらに1989年の第6回大会（神戸）では“OMCブレースの適応と臨床成績”を報告した。今大会においては約3年前に教室で開発し以後臨床応用している“開口動作を制限しない新しい頚椎装具（OMC-CO）”についての口演と展示を行った。そもそも整形外科学の分野においては手術だけに主体を置くのではなく、術後の変形予防や目的とする脊柱のアラインメントに保持するために適当な装具を用いたり、切断肢に対しては機能回復のための義肢にも充分考慮せねばならない。とくに義足に関しては、近年ハイテクが組み入れられてその発達がめざましいのに反して、装具の開発は停滞気味であったため今回のわれわれの新しいアイデアの頚椎装具には予想以上の反響があり、また展示ブースでは急激な円高にもかかわらず外国からの引き合いの対応に追われた。

6日間の学会期間の中日は午後がフリーであったため、オーストラリアに特異的に棲息する有袋動物の観光に出かけ、カンガルー、ワンバット、コアラを身近に見ることができた。しかし、これらはいずれも無表情でお世辞にも愛嬌があるとはいえなかったが、夕暮れ後に海から南極に面する陸の巣へ一気にあがってくる世界最小ペンギンの縦列行進は可愛く、夜の更けゆくのも忘れてこれを楽しむわれわれがペンギンを描いたポンチョをかぶり横1列で対した体は今思い出してもなんとも滑稽である。

Thanks very much!

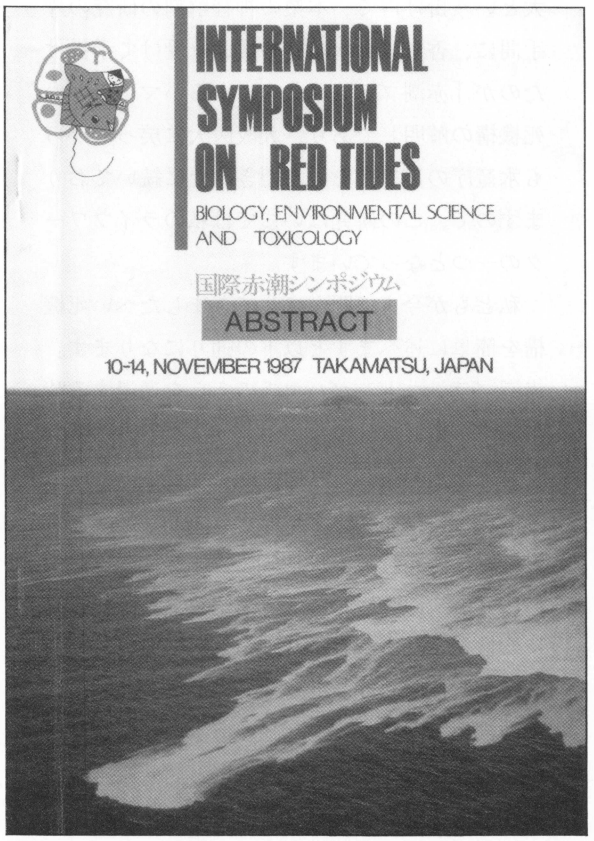
（これも Australian English のようだ！？）

医学の散歩道

「赤潮プランクトンとともに」

第二解剖学教室　島田　眞久

食膳をにぎわすものの一つに、ハマチの刺身がありますが、消費者の手に入るほとんどは瀬戸内海の沿岸で養殖されているものであります。



わが国の漁業を、「とる漁業」から「そだてる漁業」へ一大転換するきっかけをつくったのがハマチの養殖であり、香川県は引田の一漁民が私財をなげうって試行錯誤の末ついに養殖に成功したのが最初であります。この養殖ハマチを夏の最盛期に一挙にせん滅してしまうのが赤潮プランクトンです。被害額は、わずか数時間で数十億円にも達します。農林水産省は、瀬戸内海に面した県を中心に、これに協力大学を含め

た組織体を構成、「赤潮対策事業」として十数年来その対策に当たっております。実際にはこれに淡水赤潮も含まれますのでかなり多く県がからんでおり、協力大学も北は北大から南は鹿児大まで実に多くの大学がこれに参画しており、年2回あります報告会は学会の様相を呈しております。昭和55年、香川医大に赴任しました時、当時の初代砂田学長に、地域社会に貢献する医大という掛け声で、本業の神経解剖の研究の片手間に、香川県と水産庁の援助を受けて手掛けたのが「赤潮プランクトンによるハマチのへい死機構の解明」であり、大阪医大に戻ってからも水産庁のご支援をいただき今だに続いておりますので、この研究はいまでは私のライフワークの一つとなっています。

私どもが今まで明かにしてきましたへい死機構を簡単に述べますと以下の通りになります。赤潮プランクトンがハマチのえらを通過する時に、えら粘液成分の一部がプランクトンの膜レセプターを刺激、これによりプランクトンは活性酸素を含むフリーラジカルを mucocyst とともに放出、瞬時にえら粘液を構成している糖蛋白を分解、同時に脂肪酸や脂肪質を過酸化物質に変性する。これにより、粘液層の消失と粘液を産生する goblet 細胞の粘液枯渇を招き、結果的にえら呼吸上皮が高張の海水に直接暴露され、浸透圧変化により呼吸上皮と間質細胞が萎縮、ガス交換不全となり、血中酸素分圧の低下をきたしへい死にいたる。私どもは、これを「ハマチが海水中で溺れ死ぬ」と表現いたしました。この説は、以後多くの専門家によって追試、確認され、支持を受けております。

われわれの最終目的はへい死機構を解明することによりどうすれば赤潮による被害から逃れることができるかその方法を見つけることにあります。現在は、赤潮被害防止の技術開発に取り組んでおりますが、なにしろ、相手が海ですので自然環境を絶えず念頭におきながら対策を考えなければなりません。最近、われわれは実用化が期待される基礎的実験に一部成功しております。それは、プランクトンの膜表面に存在するレセプターを電気刺激することにより無毒化しようとする試みであります。ハマチのいけすの網に炭素繊維を編み込んでおきこれに微量の電流を流すとするもので、電流としては太陽電池が適当と考えております。

参考文献：Acta Histochem. Cytochem. 15, 1982; 16, 1983. Cell Str. Funct. 6, 1981. Experientia 48, 1992. Histol. Histopath. 1, 1986. Histochem. J. 23, 1991. J. Histochem. & Cytochem. 41, 1993. J. Plankton Res. 16, 1994. Marine Biol. 88, 1985 ; 112, 1992. Red tides; Biology, Environmental Science and Toxicology, 1989

主要会議とその主な議題

平成7年1月10日より平成7年4月30日までの主要な会議とその主な議題は次の通りです。

〔理事会〕

（2月14日）

1. 大阪医科大学附属看護専門学校学則中一部改正の件

（3月14日）

1. 大阪医科大学診療教授規程細則中一部改正の件
2. 学校法人大阪医科大学給与規則中一部改正の件
3. 阪神・淡路大震災被災学生学納金減免に関する件

（3月31日）

1. 平成7年度予算承認の件
2. 監事一部選任の件
3. 評議員一部専任の件
4. 学校法人大阪医科大学就業規則中一部改正の件

5. 学校法人大阪医科大学介護休業規程制定の件
6. 平成７年度主なる事業計画
7. 平成７年度定員の件
8. 平成６年度資金収支決算見込報告

（４月18日）

1. 学長辞任承認の件
2. 学長任命の件
3. 学校法人大阪医科大学給与規則中一部改正の件
4. 学校法人大阪医科大学住宅手当支給規程中一部改正の件
5. ４週８休制度に関する件

〔評議員会〕

（３月28日）

1. 平成７年度予算に関する件
2. 平成７年度主なる事業計画
3. 監事一部選任の件
4. 平成６年度資金収支決算見込報告

〔教授会〕

（２月１日）

1. 人事に関する件（非常勤講師の任用）
2. 教授選考に関する件（物理学・法医学・産婦人科学講座）
3. 第６学年後期試験成績判定に関する件
4. 学生部委員会委員の改選に関する件
5. 保健管理室設置に関する件

（２月15日）

1. 人事に関する件（学内講師、非常勤講師の任用）
2. 教授選考に関する件（物理学・法医学・麻酔科学・産婦人科学講座）
3. 学長予定者選考に関する件
4. 卒業合否判定に関する件
5. 診療教授規程細則中一部改正に関する件
6. 本学海外出張補助金支給内規（案）及び同出張補助金支給細則（案）に関する件
7. 医学情報処理センター長及び同運営委員会委員の改選に関する件
8. 実験動物センター長及び動物実験委員会委員の改選に関する件

（３月３日）

1. 平成７年度入学試験に関する件
2. 学長予定者選挙に関する件
3. 時期学生部長の選出に関する件
4. 教授選考に関する件（法医学・産婦人科学講座）

（３月９日）

1. 平成７年度入学試験に関する件
2. 人事に関する件（講師、学内講師、非常勤講師の任用）
3. 名誉教授称号授与に関する件
4. 診療教授の選考に関する件（眼科、中央検査部）
5. 教授選考に関する件（物理学・麻酔科学・産婦人科学講座）
6. 次期医学情報処理センター長の選出に関する件
7. 次期機器共同利用センター長の選出に関する件
8. 各種委員会委員の改選に関する件（同和教育推進委員会委員、教員人事に関する事項の検討委員会委員、動物委員会委員、実験動物センター運営委員会委員）
9. 学長予定者選挙に関する件

（３月22日）

1. 人事に関する件（講師、 学内講師、非常勤講師の任用）
2. 教授選考に関する件（物理学・麻酔科学講座）
3. 診療教授の選考に関する件（眼科、中央検査部）
4. 第２学年の退学願出に関する件
5. 進学課程主事の選出に関する件
6. 日本育英会奨学生（災害採用）の推薦に関する件

7. 各種委員会委員長及び委員の委嘱に関する件（同和教育推進委員会委員、教育人事に関する事項の検討委員会委員長、倫理委員会委員、医学情報処理センター副センター長及び運営委員会委員、機器共同利用センター運営委員会委員）

（4月7日）

1. 人事に関する件（講師、非常勤講師の任用）
2. 平成7年度入学者決定に関する件
3. 学長予定者選挙に関する件
4. 平成8年度入試に関する委員会委員の選出に関する件
5. 各種委員会委員長及び委員の委嘱に関する件（同和教育推進委員会委員長、倫理委員会委員長及び副委員長、治験審査委員会委員、機器共同利用センター副センター長、自己点検・評価の組織委員会委員）

（4月19日）

1. 人事に関する件（講師、学内講師、非常勤講師の任用）
2. 図書館長選出に関する件
3. 学生部委員会規程中一部改正に関する件
4. 日本育英会奨学生（災害採用）の推薦に関する件

〔大学院医学研究科委員会〕

（2月15日）

1. 学位論文受理に関する件

（3月3日）

1. 平成7年度大学院入学試験に関する件

（3月9日）

1. 研究生の願出に関する件
2. 大学院小委員会委員の改選に関する件

（3月22日）

1. 学位論文審査結果に基づく合否決定に関する件
2. 研究生の願出に関する件
3. 大学院小委員会委員長の委嘱に関する件

（4月7日）

1. 平成7年度大学院入学者決定に関する件
2. 研究生の願出に関する件
3. 語学試験委員の改選に関する件

主な行事日程（5月1日～6月30日）

5月1日から6月30日までに行われる学内における主要な予定は次のとおりです。

5月10日（水）教授会、大学院医学研究科委員会
12日（金）看護の日
13日（土）学位論文受付締切
ナイチンゲール生誕祭
16日（火）理事会
17日（水）さつき会（生前献体登録者懇親会）
24日（水）教授会、大学院医学研究科委員会
29日（月）理事会
30日（火）松本学長退任記念特別講演
時間：16：30～17：30
場所：臨床第1講堂
31日（水）評議員会
本学春季医学会総会及び学術講演会
6月 1日（木）本学創立記念日
2日（金）平成7年度永年勤続者の表彰式
3日（土）新入生歓迎会
7日（水）教授会、大学院医学研究科委員会
12日（月）学位論文提出のための語学試験
21日（水）教授会、大学院医学研究科委員会
28日（水）献体者に対する文部大臣からの感謝状の伝達及びご遺骨返納の式

阪神・淡路大震災に関する支援等について

今回の大震災が淡路・阪神はじめ周辺各地に想像を絶する甚大な被害をもたらしたことはすでに周知のことです。

本法人では震災発生直後から被災地救援のため義援金を募るとともに、神戸市内へ医療チームを派遣して現地医療を行い、医療機関として貢献に勤めました。また、神経精神医学教室は震源地の淡路地区において、他大学の医療チームや現地の病院とともに、精神医療活動を行いました。さらに、貴重な災害時医療の体験をふまえて「阪神大震災に学ぶ」と題してシンポジウムを開催し、救急・救援および、災害後の※PTSDなど心身のケアに関する認識を深める試みを行いました。ここにそれぞれの関係者皆さまの温かいご支援、ご協力に対し、お礼を申し上げます。

なお、学校教職員にも被害が及び、その方々には、心ばかりのお見舞を致しました。

※ Post Traumatic Stress Disorders：心的外傷性ストレス症候群という。

＜主な支援内容＞

1. 医療救護等について

本学救護班の派遣状況

日　　時：平成7年1月30日（月）
　　午前9時から
　　平成7年1月31日（火）
　　午前9時まで

場　　所：県立御影高校

取扱患者数：125名

派遣者数：医師5名、看護婦6名、事務員1名、運転手1名

日　　時：平成7年2月6日（月）
　　午前9時から
　　平成7年2月11日（土）
　　午前9時まで

場　　所：魚崎小学校

取扱患者数：208名

派遣者数：医師16名。看護婦22名、薬剤師5名、事務員4名、運転手2名

2. 義援金について

2月1日付回覧で、教職員各位に義援金募集をお願いしましたところご賛同いただき、4,178,000円の義援金が寄せられました。

早速、本年3月7日に日本放送協会大阪放送局へ持参し、同局を経て日本赤十字社にお届けしました。

本職員各位の御厚志御協力に深く感謝申し上げます。

3. 本学教職員被災者への対応について

本学災害見舞金の支出状況

・専任教職員

持家の全壊：8件　800万円（1件当り100万円）

持家の半壊：9件　450万円（1件当り50万円）

・持家の⅓以上の損害：7件　175万円（1件当り　25万円）

・専攻医・研修医

持家の全壊：3件　30万円（1件当り10万円）

持家の半壊：1件　10万円（1件当り10万円）

合計　28件　1,465万円

大阪医科大学医学会主催のシンポジゥム開催

医学会主催の「阪神大震災に学ぶ―報告と提言―」と題したシンポジゥムが本学の救護・救援活動を総括する目的で下記のとおり開催されました。当日は学内外から多くの方々が参加され、会場を埋めた多数の聴衆も講演者の話を熱心に聞き入っていました。

日時：平成7年4月12日（水）
pm 2：30～pm 5：30
場所：大阪医科大学臨床第1講堂
映画「災害経過の映像」　読売テレビ放送

第1部　身体医学・医療の側面
座長：耳鼻咽喉科学　高橋　宏明　教授

1　災害医療における時間学
大阪府三島救命救急センター
冨士原　彰　所長

2　初動における問題点
大阪府三島救命救急センター
診療第一部　福本　仁志　部長

3　大学医療チームの立場から
整形外科学　森下　忍　講師

4　看護の立場から
看護部　小林　千恵子　副部長

5　法医の立場から
法医学　鈴木　廣一　教授

6　追加発言
西宮協立脳神経外科病院
外科　向井　龍一郎　部長

休　憩

第2部　精神医療の側面
座長：神経精神医学　堺　俊明　教授
第一解剖学　大槻　勝紀　教授

1　神経精神医学教室の対応
神経精神医学　米田　博　助教授

2　精神科看護の立場から
看護部　大川　真紀子　婦長

第3部　長期災害と心の病
島原市医師会　中村　隆平　会長

まとめ　日本の災害医療の構築に向けて
堺　俊明　教授
（日本精神神経学会理事会阪神大震災対策特別委員会関西現地本部本部長）

厚生省と大阪府との特定共同による社会保険医療担当者の指導について

社会保険医療において定められている、保険医療機関及び保険医療養担当規則等を更に良く理解し保険医療の質的向上及び、適正化を図ることを目的として平成6年度は、本学附属病院が次の通り指導を受けた。

記

1. 日時　平成6年3月15日（水）
午前10時～午後5時30分
1. 来院者　厚生省・大阪府・日本医師会・大阪府医師会より28名
1. 本学　理事長・学長・院長・副院長・各科教授・事務部・薬剤部・看護部及び担当医師
1. 内容　午前：病院内視察及び関係書類点検
午後：カルテ・レセプトに基づき個々に保険医療担当規則等との照合及び指導

附・属・病・院

平成６年度下半期附属病院患者動態

本年度下半期の患者動態は下記の通りです。

（平成６年10月～平成７年３月）

	人 入院患者数	人 外来患者数	対前年度増減率％ 入院患者数	対前年度増減率％ 外来患者数
H. 6.10	(833.8) 25,847	(2,428.8) 60,719	△ 2.87	△ 4.89
H. 6.11	(830.0) 24,900	(2,439.0) 58,535	△ 4.28	△ 7.02
H. 6.12	(796.5) 24,692	(2,518.8) 57,933	△ 0.67	△ 6.54
H. 7. 1	(764.6) 23,702	(2,262.3) 52,032	0.46	△10.38
H. 7. 2	(890.1) 24,923	(2,436.3) 56,035	0.77	△ 1.84
H. 7. 3	(902.8) 27,988	(2,518.7) 65,486	2.18	△ 1.19
合　計	(835.5) 152,052	(2,435.7) 350,740	△ 0.75	△ 5.26

（　　）内は、１日平均患者数

＊平成６年度下半期入院関係稼動日数182日（平成５年度も同）
外来関係稼動日数144日（平成５年度も同）

平成５年度・６年度（年間……１日平均）の動態

区　分	入　院		外　来
	入院患者数	稼　動　率	外来患者数
５年度	８５３人	８６．８％	2,553.1人
６年度	８４６	８６．１	2,440.4

（内　訳）

上半期（４月～９月……１日平均）

区　分	入　院		外　来
	入院患者数	稼　動　率	外来患者数
５年度	８６５人	８８．０％	2,536.0人
６年度	８５６	８７．１	2,444.8

下半期（10月～３月……１日平均）

区　分	入　院		外　来
	入院患者数	稼　動　率	外来患者数
５年度	８４２人	８５．７％	2,570.8人
６年度	８３６	８５．０	2,435.7

第44回医学部卒業生記念撮影

よくも悪くも同期生

卒業式はいつの場合も、入学式の緊張とは裏腹に華やいだ雰囲気があふれる。ただ大学の場合はある種の達成感と同時に、気楽な学生生活と別れ、社会の荒波に向かう不安と希望が胸中をよぎる。さて記念写真。カメラさんが「はい」と声をかけるまで明るいジョークや笑いが続く。よくできたヤツも、気楽なヤツも、要領のいいヤツも悪いヤツも、同じ顔して一枚の写真に収まってしまう。言葉は古いが“同期の桜”恐らく生涯を通して、ほかの友とは違った得がたい結びつきが続くだろう。

大阪医科大学学報　第24号

発行年月日	平成7年5月1日
発　　行	学校法人　大阪医科大学
発行責任者	事務局長　多田數義
編集・発行	総務部庶務課